

業績一覧（2019年度）

雑誌名	社会学ジャーナル
巻	45
ページ	87-94
発行年	2020-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2241/00159858

教員等業績一覧（2019年度）

○五十嵐泰正

【著書】

- ・『上野新論——変わりゆく街，受け継がれる気質』せりか書房，2019年12月。
- ・（本橋信宏との対談）「事件は平和な街で起きる」本橋信宏『東京裏23区』大洋図書，2019年12月，pp. 279-291。

【論文】

- ・「市場の選択，社会の選択，個人の選択」『日本リスク研究学会誌』29巻 2号，2019年10月，pp. 129-135。

【書評】

- ・安東量子著『海を撃つ——福島・広島・ベラルーシにて』（みすず書房，2019）評，『パブリッシャーズ・レビュー みすずの本棚』第31号，2019年6月15日，p. 3。

【座談会記事】

- ・（明石純一，岡部みどり，八代尚宏との座談会）「これからの「移民」の話をしよう。：外国人労働者とともに歩むニッポンのゆくえ」『POSSE』41号，2019年3月，pp. 10-27。

【ウェブ記事】

- ・（インタビュー）「#108：来た球を打ち返す社会科学」『TSUKUBA FUTURE』2019年5月28日，<https://www.tsukuba.ac.jp/notes/108/index.html>。
- ・「原発事故と「食」——市場，コミュニケーション，差別」『SYNODOS』，2019年11月15日，<https://synodos.jp/society/23002>。
- ・「ごちゃ混ぜ感がたまらない？ 上野という名の「キャラ渋滞」都市」『アーバンライフメトロ』，2020年2月17日，<https://urbanlife.tokyo/post/28888/>。
- ・（インタビュー）「処理水の海洋放出「漁師に責任を負わせるな」処理水巡る議論，社会学者の懸念」『BuzzFeed Japan』，2020年2月21日，<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200221-00010001-bfj-soci>

【学会報告，講演など】

- ・（2019年度社会調査実習 II 参加学生との共同報告）「福島海と魚のいま」『社会学類社会実習調査報告会』グローバルビレッジコミュニティステーション，2019年3月6日。
- ・「原発事故と「食」」『南相馬市立総合病院有志勉強会』南相馬市立総合病院，2019年5月14日。
- ・「まちづくり憲章策定に向けて」『副都心上野まちづくり協議会』上野区民館，2019年6月26日。
- ・「市場からみる「風評」被害の現在とこれから——消費者の選択以前に起こっ

- ていること』『福島ダイアログ 福島の復興はどこまで進んだのか？農業と漁業を中心として？』東日本国際大学，2019年8月3日。
- ・「原発事故後，社会学は本来何ができたはずなのか」『日本保健物理学会 PU 委員会 第3回全体会合』日本原子力研究開発機構東京事務所，2019年9月5日。
 - ・（コメンテーター）『企画セッション 福島復興知を考える：原子力災害から地域再生と社会イノベーション』環境経済・政策学会（SEEPS）2019年大会，福島大学，2019年9月29日。
 - ・「「原発事故後の「食」を考える」『第三土曜の会』文京区勤労福祉会館，2019年10月19日。
 - ・「「日本型民泊」導入の背景と規制の現状——地域政策，社会政策との接点」『シェアリングエコノミーとギグ・エコノミーの事例検討 移民労働，貧困，民泊の実情から考える』経済理論学会問題別分科会：現代の労働・貧困問題研究会，駒澤大学，2019年10月20日。
 - ・「繁華街における流動性とコミュニティ—東京・台東区上野地区のフィールド調査から」『研究発表I コミュニティ・地域活性化』日本都市学会第66回大会，広島 JMS アステールプラザ，2019年10月26日。
 - ・「上野憲章素案たたき台」『副都心上野まちづくり協議会』上野区民館，2019年11月27日。
 - ・「『食』から考える原発事故後の市場と社会」『第4回 ふくしま県民公開大学』郡山市中央公民館，2020年2月9日。
 - ・「What should be done after 9 years? – The current situation of Fukushima food products from a market point of view」『Session4: Business Interest In Emergency And Recovery Phases』OECD/NEA Workshop on Preparedness For Post-Accident Recovery Process; Lessons From Experience，東京大学山上会館，2020年2月19日。
 - ・（本橋信宏との対談）「TOKYO：都市の闇・闇の都市 ～“地霊”が宿る大都市・東京の裏面を覗き見る～」『五十嵐泰正『上野新論』×本橋信宏『東京裏23区』出版記念トーク』Live Wire，2020年2月23日。
- 【メディア出演，インタビュー記事など】
- ・（スタジオゲスト出演）『Abema PRIME』AbemaTV，2019年3月11日。
 - ・（インタビュー記事）「福島県産品の回復阻む市場構造，五十嵐筑波大准教授」『日経新聞』，2019年3月25日。
 - ・（コメント出演）『はまなかあいづ TODAY』NHK ふくしま放送局，2019年8月2日。
 - ・（スタジオゲスト出演）『LIFE 特集：開かれた場のジレンマ』TBS ラジオ，2019年8月25日。
 - ・（スタジオゲスト出演）『東関東人図鑑』J:COM 東関東局，2019年9月1～10日。

- ・(インタビュー)「好書好日－著者に会いたい 五十嵐泰正さん「上野新論」インタビュー 居心地がいい懐の深さを」『朝日新聞』2020年2月22日。
- ・(インタビュー)「(声 どう思いますか)「食べて応援」東日本大震災9年 互いの信頼、熟議へのヒント」『朝日新聞』2020年3月11日。

○奥山敏雄

【論文】

- ・「スピリチュアルケアにおける死にゆく患者と医療者との対話」『社会学ジャーナル』第45号、筑波大学社会学研究室、2020年、55-72頁。

○土井隆義

【著書】

- ・『「宿命」を生きる若者たち－格差と幸福をつなぐもの－』岩波書店（岩波ブックレット）、2019年6月

【論文】

- ・「内閉化する交友圏の病理－いじめ問題の社会背景－」『教育と医学』第67巻(第8号)、12-18頁、2019年9月、慶應義塾大学出版会
- ・「子どもたちのリアルな日常－イツメンとキャラの光と影－」『月刊生徒指導』第49巻(第12号)、14-17頁、2019年11月、学事出版
- ・「つながり志向という時代精神－SNSによる常時接続の社会背景－」『歴史地理教育』第907号、82-87頁、2020年3月、歴史教育者協議会
- ・(秋本光陽と共著)「少年司法における科学主義と社会的概念」『社会学ジャーナル』第45号、19-40頁、2020年3月、筑波大学社会学研究室

【学会報告】

- ・「つながり過剰症候群の時代－流動化する人間関係の光と影－」日本外来小児科学会「第29回日本外来小児科学会年次集会」2019年9月1日、福岡国際会議場
- ・「現代の生きづらさを考える－幸福と不安のありかをめぐって－」日本精神対話学会「第14回学会大会特別講演」2019年9月23日、東京大学駒場キャンパス
- ・「少年非行の動向と非行少年の処遇－社会背景から考える－」日本更生保護学会「第8回学会大会 第一セッション」2019年12月1日、国士舘大学世田谷キャンパス

【その他】

- ・「「コスパ社会」の闇－過程を軽視 不祥事誘発－」『北海道新聞』各自核論(7面)、2019年6月21日
- ・「アウトリーチを伸ばす」『I. I. MECA』第88号、1頁、2019年7月1日、一般財団法人メンタルケア協会
- ・「長期化する引きこもり－彼らの問題に矮小化できぬ－」『中国新聞』オピニオ

ン（6面），2019年7月6日

- ・「同調圧力と学校文化－いじめ問題と生徒指導に通底するもの－」『教育展望』第65巻（第8号），46～52頁，2019年9月，教育調査研究所
- ・「反転する時代精神(1)－保守化する若者のころ－」『日本教育』第491号，22～23頁，2019年10月1日，日本教育会
- ・「反転する時代精神(2)－地元を志す若者のころ－」『日本教育』第492号，22～23頁，2019年11月1日，日本教育会
- ・「反転する時代精神(3)－過去を志す若者のころ－」『日本教育』第493号，22～23頁，2019年12月1日，日本教育会
- ・「社会の後景化と若者の政治意識－政治的無関心と保守化をめぐって－」『Voters』53号，12～14頁，2019年12月，公益財団法人明るい選挙推進協会
- ・「セカイ系と宿命－社会の不在を意味するもの－」『TASC MONTHLY』第528号，3頁，2019年12月，公益財団法人たばこ総合研究センター
- ・「SNS犯罪：子どもどう守る－リアルな居場所が必要－」『読売新聞』茨城面，21頁，2019年12月29日，読売新聞社
- ・「反転する時代精神(4)－魔術化する若者のころ－」『日本教育』第494号，22～23頁，2020年1月1日，日本教育会
- ・「それでも幸せな，日本の若者たち。－特集・ニッポンの肖像－」『潮』第732号，88～94頁，2020年2月，潮出版社
- ・「現代の日本に広がる新たな心性－変貌する同調圧力の社会背景－」『幸いな人』第333号，9～11頁，2020年2月，小牧者出版
- ・「子どものSNS利用－見極める力育み安全守れ－」『北海道新聞』各自核論（7面），2020年2月8日
- ・「反転する時代精神(5)－与党支持の若者のころ－」『日本教育』第495号，22～23頁，2020年2月20日，日本教育会
- ・「若者もつらい時代，家族にできること」『倫風』第70巻（第3号），44～47頁，2020年3月，一般社団法人実践倫理宏正会
- ・「同調圧力からの脱却へ－変貌するキャラと「離見の見」－」『演技と教育』3＋4月号，1頁，2020年3月，日本演劇教育連盟

○野上 元

【共著】

- ・「再演される「東京裁判」 一九七〇／八〇年代の江藤淳と映画『東京裁判』」坪井秀人編『戦後日本文化再考』（三人社），2019年

【発表】

- ・「「学徒」と「学生」：学徒動員の記憶」シンポジウム「学生たちの戦後：矢内原忠雄と東大学生問題研究所から見た1960年安保前後の学生像」3月11日，東京大学弥生講堂一条ホール

【その他】

- ・(書評)「[正体]か[構想]か——二つの「総力戦」像：小林啓治著『総力戦体制の正体』柏書房，2016年」『戦争社会学研究』第3号，2019年
- ・(書評)「深谷直弘著『原爆の記憶を継承する実践——長崎の被爆遺構保存と平和活動の社会学的考察』新曜社，2018年」『社会学評論』70巻4号，2020年(印刷中)

○黄 順姫

【単著】

- ・黄順姫『身体文化・メディア・象徴的権力』学文社，1-280頁，2020年1月30日発行(再版)。

【報告書】

- ・黄順姫編『高校部活動の光と影』社会学演習Vaゼミ報告書 2020年。

【シンポジウム等発表】

- ・「『Society 5.0』社会構造変動でのソフトパワーと対処戦略」、『『グローバル社会』に期待される大学・人材・地域』。
- ・主催：筑波大学リサーチユニット，筑波大学メンター会，2019年11月3日，筑波大学 大学会館「国際会議室」

【シンポジウムコーディネーター】

- ・「Society 5.0時代に生き残る能力はいかに体得できるか？」主催：筑波大学リサーチユニット，筑波大学メンター会，2019年12月13日，筑波大学第一エリア 共同利用棟 A101。
- ・「『グローバル社会』に期待される大学・人材・地域」主催：筑波大学リサーチユニット，筑波大学メンター会，2019年11月3日，筑波大学 大学会館「国際会議室」。

【その他の活動】

- ・ラヂオつくば「Wh@t Tsukuba」放送出演，「身体文化・メディア・象徴的権力」を講義。① 2019年8月13日放送。② 2019年9月25日放送。③ 2019年10月30日放送。④ 2019年11月13日放送。⑤ 2019年12月25日放送。⑥ 2020年1月29日放送。⑦ 2020年2月26日放送。

○森 直人

【著書】

- ・『総中流の始まり——団地と生活時間の戦後史』青弓社，2019年11月(渡邊大輔・相澤真一と共編)。

【報告】

- ・「近現代日本の国家・社会と教育の機能」社会政策学会第139回大会共通論題「社会的投資戦略と教育」，2019年10月19日，法政大学市ヶ谷キャンパス。

- ・「リプライ・森直人「近現代日本の国家・社会と教育の機能」を読む」第20回多様な教育機会を考える会，2019年12月21日，上智大学四谷キャンパス。

○赤羽由起夫

【著書（分担執筆）】

- ・「脳科学化する社会と少年司法」山口直也編著『脳科学と少年司法』現代人文社，66-83，2019年8月。
- ・「デュルケム社会学を使い継ぐ——機能主義の知識社会学の可能性と課題」日本社会病理学会監修，朝田佳尚・田中智仁編著『社会病理学の足跡と再構成』学文社，119-38，2019年10月。

【教科書】

- ・「15章 今求められる生徒指導（2）学校への適応」香川七海・福若真人・蒲生諒太編著『猫七教育テキスト 3 教育原理』猫七社，150-1，2019年10月。

【論文（査読あり）】

- ・「『心の闇』の社会学に向けて」『社会学ジャーナル』第45号，筑波大学社会学研究室，1-17，2020年3月。

【学会報告】

- ・「『心の闇』の内容分析——三大全国紙を対象として」日本社会学会第92回大会，自由報告，東京女子大学，2019年10月5日。

大学院生（国際公共政策専攻）業績一覧（2019年度）

○井上恵子

【論文】

- ・「個人からエスニシティを問う—実践としてのエスニシティを分析する視角」『社会学ジャーナル』45号，筑波大学社会学研究室，41-53，2020年3月。

○秋本光陽

【論文】

- ・（土井隆義と共著）「少年司法における科学主義と社会的概念」『社会学ジャーナル』45号，筑波大学社会学研究室，19-40，2020年3月。

○周筱

【論文（査読あり）】

- ・周筱，2019，「男女平等理念と児童保護理念の挟間—中国の廃娼運動における「幼女」をめぐる—」『21世紀東アジア社会学研究』（10），134-148。

【学会報告】

【国内学会】

- ・周筱，2019，「東アジアにおける「援助交際論」の再検討」，日本社会学会・口頭報告（一般），2019.10.29，東京女子大学
- ・周筱，2019，「性の客体／性の主体としての「幼女」」，日本犯罪社会学会・口頭報告（一般），2019.10.19，淑徳大学

【国際学会】

- ・ZHOU Xiao, 2019, Child Sexuality in China's Legal System, Asian Law and Society Association 4th Annual Meeting (Paper presentation), 2019.12.14, Osaka University

○野上 亮

【学会報告】

- ・「言説資源としてのミルズ大衆社会論と「脱領域的な労働者文学」」，第92回日本社会学会大会一般研究報告，東京女子大学，2019年10月5日。

○佐藤知菜

【学会報告】

- ・「初期日本栄養学における『道徳』—医学博士・佐伯矩の著書『栄養』（1926）から」第92回日本社会学会大会，一般研究報告，東京女子大学，2019年10月5日。

○目黒 茜

【学会報告】

- ・“The Professionalization of Japanese Female Doctors”, Proceedings of New Perspectives on Nursing History: Women and Care in East Asia, 14 February 2020, Duke University, Durham, North Carolina.
- ・「妻たちの花柳病」問題における女医の役割——竹内茂代による「花柳病二関スル請願」(1939)を中心に」第92回日本社会学会大会，自由報告，2019年10月5日，東京女子大学.
- ・「1930年代における医学的関心としての「女の身体」——女医竹内茂代による博士論文『日本女子の體質に関する研究』(1933)に着目して」関東社会学会第67回大会，自由報告，2019年6月8日，早稲田大学戸山キャンパス.

【その他】

- ・(一般向け講座)「戦前の女性雑誌の内容から現代の性教育を考えてみよう！」NPO 法人 PILCON MEETUP Vol. 3, 2019年8月5日.

○織田孝裕

【著書】

- ・「いじめの対応とグループトレーニング」畠中宗一編『共に生きるための人間関係学～「自立」と「つながり」のあり方～』金剛出版，2020年2月

【論文(査読あり)】

- ・「昭和期の家庭内暴力とは何であったのか～M-GTAを手がかりとして～」『立教社会福祉研究』第39号，2020年3月

【その他】

- ・日本LD学会第28回大会シンポジスト「発達障がい二次障がい～ゲーム依存について～」パシフィコ横浜，2019年11月10日

○宮前健太郎

【研究ノート】

- ・「明治初頭における公衆衛生をめぐる啓蒙に関する一考察——小新聞の投書欄に着目して——」『社会学ジャーナル』45号 筑波大学社会学研究室

【学会報告】

- ・「延命医療言説の変遷に関する社会学的研究——胃ろうの大衆化とその批判的言説を例に」コメンテーター：天田城介氏，日本社会学理論学会第14回大会修士論文フォーラム，東洋大学白山キャンパス2019年9月8日